

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
競技審判委員会

ILS 競技規則 2023 年版の補足説明について

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして、多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

過日、国際ライフセービング連盟（ILS）より、ILS 競技規則 2023 年版を補足する意味合いである、「Technical Bulletin #5」が公表されました。本件は、Lifesaving World Championships 2024 に参加する競技者およびテクニカルオフィシャルにも影響を及ぼす重要な事項であることから、JLA にて対訳した日本語による補足説明を公表することとなりました。

詳細につきましては、別紙資料をご参照ください。

■ 該当の原文資料

<https://www.ilsf.org/wp-content/uploads/2024/07/ILS-Competition-Rule-Book-2023-Technical-Bulletin-5-Final-2-July-2024-V2.pdf>

【お問合せ先】

公益財団法人 日本ライフセービング協会
事務局 担当：水川
mizukawa@jla.gr.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会



国際ライフセービング (ILS)
スポーツ委員会テクニカル通達 # 5
ILS 競技規則 2023 版

INTERNATIONAL LIFE SAVING (ILS)
SPORT COMMISSION TECHNICAL BULLETIN # 5
ILS COMPETITION RULE BOOK 2023 EDITION

この通達は、マネキンキャリアの規則に対する公式解釈を通知するものである。これは競技会、特にライフセービング世界選手権（LWC）2024 への準備を進めている競技者及びチームを支援することを意図している。

This Bulletin advises an official interpretation to the Manikin Carry Rules. It is designed to assist competitors and teams preparing for competition and particularly for the Life Saving World Championships (LWC) 2024.

本解釈は、競技者がマネキンを運んでいる（キャリアしている）時、競技者が壁に向かって「ランジ（lunge：突進、一伸び）」してフィニッシュする手技が競技規則に即しているかについて尋ねた一連の問い合わせを受けてのものである。これら競技規則は ILS ウェブサイト (<https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/>) にある ILS 競技規則の S3-3.2F¹に記載されている。

This interpretation follows a series of questions about the legality of competitors' "lunge" to the wall to finish when carrying the manikin. These rules are contained in S3 – 3.4 F. of the ILS Competition Rule Book located on the [ILS website](https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/).

その問い合わせとは、世界の多くの競技会において、フィニッシュを前にした競技者がマネキンと共に水面下に潜り、それ以降ストロークせず、フィニッシュ壁に向かってキックする競技者が多くみられることに基づいている。問い合わせのあった競技は主にマネキンキャリア・ウィズ・フィンに関するものであるが、フィンを装着しないマネキンキャリアにも（本解釈は）適用できる。

The question has arisen based on observations at a number of competitions around the world where, prior to their finish, competitors dive under the surface of the water with the manikin and kick to the finish wall and without taking a further stroke. The event in question relates primarily to the Manikin Carry with Fins but could also apply to manikin carries without fins.

該当する S3-3.2F.の文言は次の通り：

The relevant wording in S3 – 3.2 F. is:

¹ 【JLA 注釈】 原文の誤植 S3-3.4F を S3-3.2F に修正した。

競技者とマネキンが一体とみなし、キャリーの姿勢の時いずれかは水面より上にとどまっていなければならない。

“The competitor and manikin are considered to be one unit and, when in the carry position, either must remain above the surface of the water.”

注意 1：「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。

Note 1: “Surface” means the horizontal plane of the surface of a still water pool.

注意 2：競技者及びマネキンが共に完全に「水面下」であれば、失格となる。

Note 2: If the competitor and manikin are both fully “below the surface”, it is a disqualification.

但し、マネキンが水中にあり、且つ、通常のストローク又はキックサイクルの一部として競技者が水面下に一瞬沈んだ（dip）としても、競技者の頭部又は腕などの体の一部がレース全体を通して水面上にあれば、失格とはならない。²。

However, there is no disqualification if the manikin is underwater and a competitor dips below the surface of the water as part of their normal stroke or kick cycle provided that the competitor breaks the surface throughout the race with some part of their body such as their head or arm.

注意 3：折返し又はフィニッシュ壁/縁にタッチするための最後のストローク/ランジ（一伸び）のため、又はリレーのマネキン受け渡しのため、競技者及びマネキンが共に水面下になったとしても、失格とはならない。

Note 3: If the competitor and manikin are both below surface as the result of the competitor’s final stroke/lunge to touch the turning or finish wall/edge or for a relay exchange, it shall not be a disqualification.”

ILS 競技規則委員会（ILS Sport Regulations Committee）、及び LWC2024 のナショナルチーム、インタークラブ、マスターズプールのチーフレフリーらと協議した結果、解釈としては、競技規則 S3-3.2F の意図は、フィニッシュ壁に近い場所での最終ストロークとして 1 回の「ランジ（lunge：突進、一伸び）」のみが許容されるということで、つまり、フィニッシュ壁まで 5 m の目印の手前側又は向こう側にかかわらず、マネキンと共に水面下に潜って、腕のストロークをせずにキックする競技者は、壁への最後のストローク/ランジ（一伸び）を完了しておらず、フィニッシュ壁の直近で最終ストローク/ランジ（一伸び）が無い限り³競技規則の意図に反して（競技に）参加しており、失格の対象となる（DQ19）、というものである。

Following consultation with the ILS Sport Regulations Committee and the Chief Referees for the National Teams, InterClub and Masters Pool LWC2024, the interpretation is that the intention of the rule S3 – 3.2 F is to allow for a “lunge” only as a final stroke near to the finish wall. i.e., a competitor diving under the surface of the water with the manikin and kicking without taking an arm stroke either within or

² 【JLA 注釈】この「但し、マネキンが．．失格とはならない」の文言は、【ILS 競技規則 Sep. 2023 改訂版】から追加されたもので、【JLA 競技規則 2023 年版（2023.08.07 版）】には反映されていない（JLA 競技規則 2024 年版で策定予定）。また、JLA 主催競技会に於いてこの「レース全体を通して水面上にあれば」とは、レース中「一瞬たりとも水面下にあってはならぬ」ではなく、「通常ストローク又はキックサイクルの一部として瞬間的に水面下にあることを除いて、概ね水面上にあれば」を意図しているものとする。

³ 【JLA 注釈】この表現だと、マネキンと共に潜水してストローク無しにキックで進んでも、フィニッシュ直前で最後のストロークをすれば失格にはならないようにも読み取れるが、そもそも競技者とマネキンが共に水没して進み続けることは、マネキンキャリーの規則に違反していることから、失格の対象となる。

beyond the 5m mark to the finish wall is not completing a final stroke/lunge to the wall and is participating outside of the intention of the rules unless the final stroke/lunge is within close proximity to the finish wall and shall be subject to disqualification (DQ19)

ILS 競技規則 S1-6, S2-2.3 及び 4.4, ILS ライフセービング世界選手権 2024 ハンドブック Part B Section 5 に従って, ILS イベントマネジメント委員会（別名：コンペティション委員会）はこの解釈を支持する。

“The ILS Event Management Committee (also known as the Competition Committee) appointed for LWC 2024 has supported this interpretation as per S1 - 6, S2 - 2.3 and S2 - 4.4 of the ILS Competition Rulebook and Part B Section 5 of the ILS Lifesaving World Championships 2024 Handbook.”

詳しい説明が必要であれば, ILS スポーツ委員会事務局（the Secretary of the ILS Sport Commision, sport@ilsf.org）までお問い合わせください。

Should further information be required please direct your enquiry to the Secretary of the ILS Sport Commission at <mailto:sport@ilsf.org>.

2024 年 7 月 1 日

■JLA による解説

このたび ILS から通達（Bulletin）が発行されました。マネキンキャリアしながらフィニッシュする手技に関する競技規則について公式な解釈が示されており, 失格の判定にもかかわります。世界選手権 LWC2024 直前なので競技規則の文言に変更はありませんが, LWC2024 ではこの通達内容に基づく判定がなされるとのこと。そこで日本の皆さんの便に供するため参考訳を対訳形式お届けするしだいで

す。そもそもこの通達は, 最近の欧州でのプール競技会におけるマネキンキャリアwith フィンのフィニッシュの仕方について, ILS 競技規則委員会（ILS Sport Regulations Committee）へ質問が寄せられたことへの回答にあたります。

本通達の本文でも引用されている通り, 競技規則 S3-3.2F には, フィニッシュ壁にタッチするための最後のストローク／ランジ（lunge：突進, 一伸び）の結果として競技者及びマネキンが共に水面下に潜ってしまっても, それは失格ではないことが書かれています。しかしながら, 最近の欧州でのプール競技会において, フィニッシュ壁から約 5 m も前で最後のストロークを済ませ, その後マネキンと共に潜行し, フィンのキックを数回繰り返してフィニッシュ壁に達する競技者が現れ, 果たしてこの意図的な潜行は競技規則 S3-3.2F で認めている手技の範囲に含まれるのだろうか? という議論に発展したわけです（このフィニッシュ前約 5 m からの潜水は, , 競技者の頭がフィニッシュ前 5 m を過ぎたら水没しても構わないという, 近年改訂された背泳ぎの競泳規則に影響を受けたものとも推察される）。

仮に, この手技を認めると, フィニッシュ前 5 m といわず, もっと前の地点で最後のストロークを済ませ, その後マネキンと共に潜水し, フィンスイムで（おそらく水面を泳ぐよりも抵抗が少ない状態で?）フィニッシュ壁まで潜行できるようになります。しかし, それはマネキンキャリア規則（S3-3.2F）の最初に書かれている「競技者とマネキンは一体とみなし, キャリーの姿勢の時いずれかは水面

より上にとどまっていなければならない」に反し、また、水面下で何度もキックする様子は「ランジ（lunge：突進，一伸び）」を何度も行っているようにも見え，やはり認めるべきではないだろうということになりました。

そこで，本通達にあるとおり，フィニッシュ壁に近い場所に於いて最後のストロークとしての（水没しても良い）「ランジ（lunge：突進，一伸び）」が1回だけ許されることとし，水没してキックで進むことは認めないという解釈を LWC2024 前に公表し，競技者及びチーム関係者へ注意喚起することになったわけです。

(End of Document)